

スキー場人気をもう一度 訪日客見込み新設・再開業

2017年12月12日 11:02 [有料会員限定]

インバウンド（訪日外国人）らの利用も見込んで、スキー場を新設・再開業する動きが出ている。国内では14年ぶりとなる新設スキー場「峰山高原リゾート ホワイトピック」が16日、兵庫県神河町で開業する。新潟県妙高市では閉鎖した施設が「ロッテアライリゾート」となり、11年ぶりに同日再開業する。スキーブームから約30年、バブル崩壊後は施設の閉鎖が相次いだが、インバウンドの力も借りながら復活を目指す。

兵庫の施設は神河町が約10億円を投じて整備。3コースありナイター照明も備え、民間企業が運営する。人工降雪機15台で雪を作るが、最近の冷え込みも手伝いフル稼働でオープンに備えているという。

阪神間から車で1時間半の好立地で、外国人に人気の姫路城にも近い。雪になじみのない台湾やタイのファミリー層などアジアからのインバウンドも取り込む。外国人に配慮し、英語でのプライベートレッスンも用意する。

ロッテアライリゾートは韓国のホテルロッテグループが、2006年に破綻した新井リゾートを買い取り再整備した。全11コースのスキー場のほか、257室の高級ホテルも併設する。

「アジア最高のプレミアムマウンテンリゾート」をうたい、待ち時間なしで乗れる8000円のファーストクラスリフト券を設ける。新潟空港とソウルを結ぶ路線は10月30日から週3往復から4往復に増便。最盛期の2～3月は5往復に増えるほか、北陸新幹線の上越妙高駅からはシャトルバスで30分で行ける。韓国のほかアジア各地、オーストラリアなど海外からの集客にも力を入れる。

今年はスキーブームを象徴する映画「私をスキーに連れてって」の公開から30年。JR東日本は今季のスキー向け旅行商品のキャッチコピーを「私を新幹線でスキーに連れてって」にし、需要を喚起する。特に若い人にスキー場へ来てもらおうとリクルートライフスタイル（東京・千代田）と連携し、一部の人を対象に、東京―越後湯沢の新幹線（自由席）の利用料金を往復6600円と、通常のほぼ半額に設定。12日出発分以降の旅行商品として販売している。

エイチ・アイ・エス（HIS）子会社のオリオンツアー（東京・中央）では17年度のスキーバスツアーの予約件数が、現時点で16年度を数%上回っている。国内のスキー場を次々傘下に収めて再生している、日本スキー場開発の鈴木周平社長は「訪日客の取り込みが集客の鍵」と指摘する。



16日にオープンする峰山高原リゾートには雪が積もり始めた(8日、兵庫県神河町)



私を新幹線でスキーに連れてって
JR SKISKI

映画「私をスキーに連れてって」をイメージしたJR東日本のポスター(同社提供)

